

オレゴン州：小麦作柄と気象状況

2005年6月14日

2005年6月12日現在の概況：

6月12日に終わる週の気象は、小麦主産地のNC地区では乾燥・低温、Willamette地区では湿潤・低温気象であった。NC地区の最高気温はPendletonにて79度F、Moro観測所では75度Fであった。平均気温は平年を7～12度F下回った。降雨はMoro、Pendletonでは記録されなかったが、Sherman郡の一部では驟雨が有った。Willamette盆地に於いては、平均気温は平年を2～6度F下回り、最高気温は75～78度F、最低気温は38～45度Fであった。降雨は各地に有り、1週間の降水量は0.19インチ～0.70インチであった。1週間の州平均農作業稼働日数は6.0日（前週：6.4日）であった。土壌水分は前週より改善した。

冬小麦は100%が出穂した。昨年（85%）並びに5年平均（83%）より早い進展である。Willamette盆地の一部では、圃場が軟弱の為春小麦の播種に遅れが出たが、全州で略播種は完了した。低温が続いている為出芽が遅れている。Morrow郡の冬小麦は、5月の降水で大分改善したが、1月～2月の降水不足から小麦は十分な分蘖をしていないことより、単位収量は平年の70%程度と予想された。Sherman郡の冬小麦は全て開花中。低目の温度と時々有る驟雨より高単位収量が期待された。Umatilla郡の冬小麦の作柄は良好と報告された。Wasco郡の春小麦は出穂直前である。同郡強風が続き土壌の乾燥が心配された。

冬小麦の作柄は前週より改善したが、春小麦の作柄評価は、“Fair”が増加し、“Poor”と“Good”が減少した。

6月10日USDA発表の6月1日付け冬小麦の生産予想では、単位収量は58.0 bushels/acreと5月1日の予想より3.0 bu/acr増加した。5月の降雨と急激な温度上昇が無かったことがプラス要因となった。詳細は別表の通り。

土壌水分：6月12日現在

	Very short	Short	Adequate	Surplus
Topsoil (%)	7	7	76	10
Subsoil (%)	8	18	67	7

小麦生育状況：6月12日現在

	This Week	Last Week	Last Year	5-Year Ave.
Spring wheat Emerged (%)	100	97	99	91
Headed (%)	19	0	70	0
Winter wheat Headed (%)	100	91	85	83

次ページへ：

小麦の作柄状況：6月12日現在

	Very Poor	Poor	Fair	Good	Excellent
Winter Wheat					
This week (%)	1	7	27	57	8
Last week (%)	1	14	34	43	8
Spring Wheat					
This Week (%)	8	14	47	28	3
Last Week (%)	10	21	31	33	5

Source: Oregon Agricultural Statistics Services

6月1日付けUSDA発表冬小麦の生産量予想：

State	Harvested Area 1,000 Acres		Yield Bushels/acre			Production 1,000 Bushels	
	2004	2005	2004	2005		2004	2005
May 1				June 1			
OR	780	840	61.0	55.0	58.0	47,580	48,720
USA	34,462	35,069	43.5	45.4	44.1	1,499,434	1,545,971

この作柄・気象レポートに関してのご質問は下記にお願い致します。

小川正晃：<mailto:ogawa.max@omicnet.com>